



俳仙草川集

芥子のすきるゆきりあそび
の草花川さくさくはあそび
垣根をめぐれはあそび人あまねく
ふりあそびさくさくはあそび
あそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそび

何れも海から横断一筆全志

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

梅通

芥舎

南候

茅英

並隆

うらを

此れは二女社氏もさうけよく

黙沈

日くれてたうすり神れをこ

通

ひれ其りさ泥の年忌をから抄ぼく

全

降てもおまら 二女社より

終

ほりくとうつたれさぬ蘇の内

英

嫁入さても止てさい

隆

夕月子巨鐘の破をけちすあり

を

常々く久しうさうぬ 隆費

沈

小こころを極れひまじし門ト梅

全

新母の目さくのあかりつさ金ふ

通

さききくせしあつさむを

英

鏡耐器乃さきく東風うせ

淡

久大すさる目とて二日とさつと目

旅

月の光あつて新うけのち

隆

高あらしもあますちハ小利りま

沈

大勢くあほりせせぬつれ合

全

灯の光をよみてあはれに

通

よらふ心なれりさるる

美

りてはれよきてうらな

信

をぬ血の世にうらな

池

星をよみてあはれに

隆

ほそいよき旅をよみて

旅

星をよみてあはれに

美

ひとよきよきほそいよ

隆

懐吟のおきさるり

池

るよけろりよきて

通

引よける旅の積ま

全

よきてよきてあはれに

信

死をよきてあはれに

旅

目よ入るよとあはれに

執筆

三吟

よゝ海のさざめくや 牛の貝

並隆

一葉のさざめくも 海を渡る

梅通

おれはさざめくも 海を渡る

芥舎

さざめくのさざめくも 海を渡る

隆

さざめくも 海を渡る

通

海のさざめくも 海を渡る

全

音のこゝろにまはるる 刀 影

通

すゝれぬともも 移りゆく 八 元 とも

隆

修 母 あり あり あり 姑 とも 名の あり あり

全

向ひの み 影 へ 添へ の あり あり

通

口 舌 の 目 と 火 あり 白 した 強 へ あり

隆

たち 樹 を 押 け ぬ 畑 の あり あり

全

あり あり あり あり あり あり あり あり

通

了 大 根 と 約 り あり あり あり

隆

ゆゑ や る 是 燈 所 の 大 あり あり

全

やう して 燈 棚 も せき を 影 へ あり

通

少 影 倍 の 体 を 花 は 返 越 して

隆

うゝ へ の あり ぬ 風 井 あり あり

全

小 せき あり あり 離 隔 幅 の あり あり

通

影 射 あり あり あり あり あり あり

隆

川 その の 透 けて あり あり あり あり

全

そゝ 版 あり あり あり あり あり あり

通

くらりと音跡は是をくまれり  
 古肉を信んて信のうすらく  
 玉子して若くは紙を編み  
 午時くら末の 糸をききとあ  
 行つけくまのあかさられ初ま  
 軒にほそきてあはる 換 投  
 ちりくと静るあ月の人とほり  
 りつとを那ーはあささす 露

隆 全 通 全 隆 通 全 隆

一てちくやうは芽端ととれりし  
 夏原をほれて あら 日のる  
 あり候ふはあれららの信あ  
 将口のくいへ ちあはれあさ  
 ちりくと柳ふ若くは ちりくと  
 換るる あさき 春は 管 笠

隆 全 通 隆 全 通



去之部

角田門外ゆれよ手はひねりて

神りをこそなれよの一室の中を

ほりて他よ書し用も明く心の

ちあふまを遠く

おねあふるもをれて花のま

蒼乳

えりやふれまきひあし

芥舎

えりやふれまきひあし

卓池

ミカハ

井戸くげきあひしほくや浪連借 ナハリ 而店

あしつとせぬや物り イセ 香枝

晴るうやおも眼まつく物 ミカハ 蓮宇

よひくちてまゆ エト 仕受

付のきありて足感終く物 エト 有傳

葉やもあ エト 梅通

戸蔵や エト のふ

らん エト 芳和

るやれおよ イセ 花巻

室川や エト 忍化

室 エト 茶節

梅 エト 芳英

ち エト 香踏

揚 エト 我竟

エト 丁知

エト 不求

五月やと結のあつらゝきはしつ

結解那旭のひかり余言く那

汝のてあつら余言れ栢栢

池さくさしれされ解きぶ

鈴くけや栢れさもさくさく

あさの舟や栢くけりるさくさく

とふらも照きてたくれ栢くけ

谷庭まよひちあつら栢れ系

栢ちくやちくけり栢栢のひらき

あつらえ結あつらえ栢う那

日ふらつてひたけたさくさく

あつらえあつらえ栢う那

あつらえあつらえ栢う那

戸をたてし栢あつらえ栢う

且舟

解那

栢六

栢室

抱至

芙蓉

芙蓉

蓮心

芝石

雨那

子轂

子轂

子轂

自乐

さきれ 何と飽てや 白の傍 五ト 一具

はらちの 中より解く 縄をこれ 大梅

さきれ 又啼きくや 糸の柱に 蒼乳

うらひを 中一剛 掃除れ 妙あり ヨハリ 沙函

あふさぬ 今さきと 一あは イセ 津

あて 我の 手さき 足すま 去りりり イセ 角洲

あまや 巾風 ありす 啼あま イセ 栞債

あて されの 義むも 似ぬ 子能く 栞通

舟 及人 此さき 一麗う 那 イセ うつを

栞 新や 巾風 ありす 多ほり 五隆

あふさぬ 今さきと 一あは 五ト 多栞

あまやの 巾風 ありす 多ほり 万龍

香解や樹子引舟し薄き履

十三八  
竹兜

ささりのほろろささや 赤桂

ツクシ  
士厚

あさささささささささささささ

あは

余れ樹ささささささささささ

花穂

花ささささささささささささ

ミカハ  
香可

花ささささささささささささ

十三八  
林香

ささささささささささささ

直流

から梅さささささささささ

士遠

及とささささささささささ

梅通

あさささささささささささ

コハリ  
黄山

まれ月山さささささささ

タシハ  
風伝

入込とちささとあささささ

金菜

あささささささささささ

五ト  
一樓

銀の舟と珠らさささささ

タシハ  
香光

芽もきつゝさきまきまをわらわぬ 懸池

こねあまうて 懐習志とん 露のこを ち流

相あておしき 水 ぎー ー ー ぶ

伸 長

きりしけのうたをさうきしきるうね 芦定

あいやゝる風うものすやと心の風 ね付

今控てもつと海きれよりり 仕受

初年やあらぬあつりの店ひらぬ 東平

あれ根のそけて流しぬき 石岱

ねの根まひとつあまね 蛙うね 苔丸

いつとね 風かきうり ねく 蛙 芽草

改とねや 捕のこもも押してあゝ 正ト 藪外

流是は 芽あれ 芽けやあゝ 蛙 又路

花あり花踏みもゆるく戸らう那

アフリ  
楓下

夕雨やさき香あつて那く陸

アハ  
夢原

り終れあよりゆるや田れ陸

若狭

路よりと橋くまよりり那れ終り

エカハ  
波文

樹より雨をあめあめとのま

オハリ  
柳糸

掃くうちを忍ぶあつり川の原

苔菜

川越ゆるりし葉のまあより

エト  
雲山

暁の葉風ほゆるあつり

アサ  
花

海より海よりゆるいあつり

アサ  
花

あつりあつりあつりあつりあつり

アサ  
花

あつりあつりあつりあつりあつり

アサ  
花

あつりあつりあつりあつりあつり

アサ  
花

あけやけをまじりあつらひて  
野分

一多れさうりふくんでまら  
梅 ちん

苗代やまをまじりあつらひて  
左を

つゆ雨の雫をまじりあつらひて  
大葉

竹をまじりあつらひて  
廿四

眼くくけをまじりあつらひて  
去言

花

あけやけをまじりあつらひて  
加

しんをまじりあつらひて  
梅

あけやけをまじりあつらひて  
野分

花をまじりあつらひて  
梅

あけやけをまじりあつらひて  
野分

あけやけをまじりあつらひて  
野分



あはれなる花の影をいづれか 花の影

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

あはれなる花の影をいづれか 花の影 カキ 世故

全

意ふくめて茶揚れまゝにみか  
一 唄

ひとけむり流る日暮やまのる  
昌川

りまきや石櫃掃くてりてあ  
我意

小日

引くまはほいまほし小ね系  
梅通

風くまきりのゆらめく声  
蒼乳

まきんを表行例 木かたりう  
南流

葛の巻り地のあまゝ 湯乃巻  
芥念

三日月と夕影ひとりの空を踏み  
机

ちやほまゆりて 揺る 程少  
通

初鐘子列の人足のりておそ

全

結ちれ鈴、あゝあうり

流

芳ふたうきゆれ海をくひちをり

通

りてほとふあそとあゆのふあそ

机

言一りさ田れ沸らぬち月色

流

月れおころのひくよ幅幅

本

さ家のるらうきあゝきうし

机

是あそりてあゝ姫力者りり

通

あてゝあゝ顔の引もゝまあ層

全

まゝあ風もれあゝあれせあ

流

油結あゝてあれぬ花の咲ちて

通

ちやゝるきんのあゝあゝ不

机

積掛の幼あゝありとさねゝあ

流

火入さうりを極さるゝあゝ

全

ち屋さけひと網あゝさうする

机

職さゝあゝあゝあ日結あ

通

る音の御れすくばを幸かたて  
 する後物もさうきくもあふ  
 某一人とお終つくれ版交交  
 あたるぬおよそゆり終  
 延びするおまおゆつてよく海り  
 めり子るゆり振舞の急そ  
 舟の音もあつちうたはう  
 またほろちうたぬおせぬ  
 通 札 全 流 帆 全

あつちうたゆりゆり  
 めり子るゆり振舞の急そ  
 舟の音もあつちうたはう  
 またほろちうたぬおせぬ  
 通 札 全 流 帆 全  
 下者も下うとあふぬおの  
 入めるをさつちうた  
 全

天保六年  
乙未初夏

萱川社藏

書林

京寺河通姉小路上丁  
立花至嘉卯

